2023年1月8日（日）主日朝礼拝説教

『命を抱く』井上隆晶牧師
箴言4章17～27節、ルカ福音書2章22～32節

❶【聖霊を持つ者は本物が分かる】

イエス様は生まれて40日後に、初めて神殿に連れて行かれました。出産後のマリアに清めの儀式をするためと、幼子イエス様を神様にお献げするためです。さてエルサレムにシメオンという人がいました。彼は正しい人で、信仰が深く、イスラエルの慰められるのを待ち望み、聖霊が彼にとどまっていました。そしてメシアに会うまでは決して死なない、とのお告げを聖霊から受けていました。今日の物語にはシメオン、アンナといった老人たちが登場します。アンナは84歳でした。彼女は神殿を離れず、断食したり、祈ったりして、夜も昼も神に仕えていました。シメオンやアンナはイエス様に会ったことがありません。神殿の中には大勢の人がいました。その中には生まれたばかりの赤ん坊もたくさんいたと思います。それなのに、どうしてこの二人はイエス様のことが分かったのでしょう。

イエス様が分かったのはこの二人だけだった、という事実はとても重要なことを教えているように思うのです。なぜなら、本物が横にいるのに、ほとんどの人はそれが見抜けなかったということだからです。これは今でも同じことが起こっているのではないのでしょうか。本物と偽物の見分けがつかないのです。いくら本物を見ても、聞いてもその価値が分からないということは致命的なことではないでしょうか。問題は神にあるのではなく、人間の側にあるということです。

●私はよく「牧師のことで困っているのです」と云う相談を他教会の信徒さんから受けます。牧師が教会に赴任する時に、お見合い説教というのをします。でもその時は、だいたい受けの良い話をします。牧師試験の時も、合格するように試験官に合わせた良い答えをします。その人の本当の思想などは分かりません。でもその人の言動に必ず現れますし、その人が何に興味があり、どのような勉強をしてきたのか、神学校の卒論を読んだら大体分かるものです。

本物の教師と偽物の教師を見抜けないということは初代教会でもたびだびありました。2世紀の書物「ディダケー」には偽の教師の見分け方が書かれています。偽の教師は偽の教えを語ります。それを聞いた信徒さんは悪い影響を受けてしまいます。では本物を見分けるにはどうしたら良いのでしょう。シメオンとアンナはどうしてイエス様を見分けることが出来たのでしょう。25～27節まで「**聖霊**」という言葉が三回も出てきます。「**聖霊がとどまっていた**」「**お告げを聖霊から受けていた**」「**霊に導かれて**」。シメオンをイエス様の所へ導いたのは聖霊でした。書いていませんがアンナもたぶん同じだったのだと思います。鉄と磁石は同じ性質なので、お互いに引き合います。それと同じように聖霊もイエス様も同じ神、分

かれざる一体の神なので、互いに引き合い、互いを教え合い、自分と同じ者の上にとどまります。**人間は神キリストを知ることは出来ません。神の霊だけが神を知っています。私たちは同じものによって同じものを知るのです。**聖パウロは「**世は自分の知恵で神を知ることができません**」（Ｉコリント１：21）、「**私たちが…語るのも、人の知恵に教えられた言葉によるのではなく、（聖）霊に教えられた言葉によっているのです**」（Ｉコリント２：13）と言っています。だから聖霊を持つことが重要になります。聖霊は祈る者の上にとどまります。祈らない者にはとどまりません。いくら聖書を勉強しても、祈らなければキリストが分からず、救いも分からないのです。今の神学校は学問は教えますが、祈りを教えません。聖書を文学として研究しますが、キリストを知りません。「**あなたたちは…聖書を研究している。聖書は私について証しするものだ。**」（ヨハネ 5：39）だから祈らない牧師は、キリストと救いを語らず、人間のことばかりを語ります。そしてそれに引かれる人が多いのです。

●皆さんはお正月をどのように過ごされたでしょうか。食べて寝て、ＴＶをずっと見る生活はとても疲れました。この世の物では人を癒すことは出来ないのです。外にも出ず、一日中寝巻で過ごすと、人はどんどんだらしなくなり、気力もなくなってゆきます。これは良くないと思いました。人の心は生活習慣で変わるのです。6 日に朝の祈りをすると、水を得た魚のようにしゃきっとしました。7 世紀のダマスコのヨハネはこんなことを言っています。「天使がなぜ光を放っているかは、彼ら自身の力ではなく、いつも神の前に立っているからである。神から離れたら天使は死に、光も失われる。」人間も同じです。神に照らされなければその人は輝きを失い、どこまでも落ちてゆきます。堕落とは神から離れることです。

シメオンやアンナがいかに祈りの生活を送っていたかを学び、真似ましょう。昼も夜も、離れることなく、ひたすら自分を照らし続ける者に聖霊はとどまります。

❷【安らかに去らせてくださいます】

シメオンはイエス様を腕に抱き、神をたたえて言いました。「**主よ、今こそあなたは、お言葉どおりこの僕を安らかに去らせてくださいます。私はこの目であなたの救いを見たからです。…**」（ルカ 2：29～32）シメオンは「**この目で救いを見た**」といいました。シメオンはイエス様の中に何を見たのでしょう。「**両親はその子を主に献げるため、エルサレムに連れて行った。**」（ルカ 2：22）と最初に書かれています。イエス様は全世界の人の罪を贖うための献げものでした。シメオンはイエス様の上に将来起こる十字架が見えたのではないのでしょうか。ですから母マリアに預言します。「**この子は、イスラエルの多くの人を倒したり立ち上がらせたりするためにと定められ、また反対を受けるしるしとして定められています。あなた自身も剣で心を刺し貫かれます。**」（ルカ 2：34～35）何というすごい預言でしょう。祝福されるために神殿に来たのに、この子を待ち受けていたのは「いけにえ」となる「**定め**」でした。「**定められている**」という言葉が二回も出て来ます。

この小さい赤ん坊が将来、自分の罪を負って死ぬことがシメオンには見えたのです。それによって自分は罪の呪いから解放され、死から解放されるのが見えたのです。だから彼は「**安らかに去らせてくださいます**」と感謝をもって祈ったのでしょう。人が安心して死ねるためには、罪の赦しと和解がなければなりません。ダマスコのヨハネは「聖霊を宿す人は5感ではなく10感を持つ」と言いましたが、聖霊は私たちに自分が赦され、回復するという救いも見せてくれるのです。

❸【新しい者となろう】

シメオンやアンナといった老人たちは旧約を象徴しています。長かった旧約時代は歳をとり終わろうとしています。そこへ新約の象徴である若いイエス様が現れました。旧約と新約は出会い、旧約は自分の使命を終えて新約にバトンタッチしていきます。こうして旧約は新約によって完成します。また老人シメオンは死すべき人間の象徴です。一方幼子イエス様は神であり命の象徴です。老人シメオンは、幼子イエス様をその手に抱きました。彼は神を、命を抱いたのです。今、死は永遠の命を抱き、死は再び命に接ぎ木されて生き返ったのです。「**メシアに会うまでは決して死なない**」という言葉は、メシアに会ったら死ぬというよりも、消えそうになっていた命が永遠の命とつながれ、消えることなく次の世界に受け継がれていったイメージがします。まさに神と人の出会い、永遠と時間の出会い、命と死の出会いです。

●2世紀のリヨンのエイレナイオスはこういいました。「何のために彼（キリスト）は降って来られたのか。…この方は終わりを初めに、すなわち人間を神に結び合わせるために、終りの時に人々の間で人間となった方である。」

キリストに結ばれるということは、初めに帰れるという事です。先週の聖餐式の時、イエス様の所で罪も死も終わり、すべてが新しくなると感じました。キリストは万物を新しくされます。この世の物はすべて古びます。どんな新しいものも古くなり消えてゆきます。しかしキリストは古くなりません。「**イエス・キリストは、きのうも今日も、また永遠に変わることはない方です。**」（ヘブライ 13：8）このキリストに結ばれて私たちも新しくなったのです。この世の物をもらうこともうれしいことですが、最もうれしいことは、永遠なる者と結ばれることではないでしょうか。これに優る喜びはありません。

エジソンは「**高層建築の始まりはその基礎にある**」といいました。いくら大きなビルも基礎から造るのであり、基礎を造らずして、その上に大きなものは建てられません。まして神の住まいなら尚更です。祈りの生活を抜きにして、その上に何も建てられません。人生の多くの時間を祈り（基礎）に投資しなければなりません。長い、単調で、地味な祈りと聖書朗読の生活を送りつつ、神が来てくださる住まいを造った者だけが、神と出会えるのです。私たちの修道生活を主が祝福して下さいますように。